

会社の概況 (平成28年9月30日現在)

商号 信越ポリマー株式会社
(Shin-Etsu Polymer Co., Ltd.)
本社所在地 東京都千代田区神田須田町一丁目9番地
設立年月日 昭和35年9月15日
資本金 11,635,953,759円
従業員数 610名(連結4,110名)
事業所
支店・営業所 大阪支店、名古屋支店、福岡支店、
仙台営業所
工場 東京工場、児玉工場(以上、埼玉県)、
南陽工場(山口県)

株式の状況
発行可能株式総数 320,000,000株
発行済株式総数 82,623,376株
株主数 9,721名
グループ会社
しなのポリマー株式会社
浦和ポリマー株式会社
新潟ポリマー株式会社
信越ファインテック株式会社
株式会社サンエース
蘇州信越聚合物有限公司
信越聚合物(上海)有限公司
東莞信越聚合物有限公司
Shin-Etsu Polymer Hong Kong Co., Ltd.
Shin-Etsu Polymer Vietnam Co., Ltd.
Shin-Etsu Polymer (Thailand) Ltd.
Shin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn.Bhd.
Shin-Etsu Polymer Singapore Pte.Ltd.
PT. Shin-Etsu Polymer Indonesia
Shin-Etsu Polymer India Pvt.Ltd.
Shin-Etsu Polymer America, Inc.
Shin-Etsu Polymer Europe B.V.
Shin-Etsu Polymer Hungary Kft.

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会 毎年6月
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
公告方法 電子公告(<http://www.shinpoly.co.jp/>)
なお、やむを得ない事由によって、電子公告
によることができない場合には、日本経済新
聞に掲載して行います。

株式に関するお手続

	証券会社等に口座を お持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物 送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金 受取方法 の変更等)	お取引の証券会社等にな ります。	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 *トラストラウンジでは、お取扱 できませんのでご了承ください。 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店 プラネットブース(株式会社み ずほ銀行内の店舗)でもお取扱 致します。
未払配当金 のお支払	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 株式会社みずほ銀行 本店及び全国各支店 (みずほ証券株式会社では、取次のみとなります。)	特別口座では、単元未満株式の買 取・買増以外の株式売買はできませ ん。証券会社等に口座を開設し、株 式の振替手続を行っていただく必要 があります。
ご注意	支払明細発行については、 右の「特別口座の場合」 の郵便物送付先・電話お 問合せ先・各種手続お取 扱店をご利用ください。	

単元未満株式買増・買取のご案内

当社では、単元未満株式(1株から99株まで)の買増制度・買取制度を導
入しておりますので、ご利用ください。
お手続の詳細は、上記記載のお取扱店にお問い合わせください。

第57期 第2四半期 報告書

平成28年4月1日~平成28年9月30日



目次

- ・株主の皆様へ…………… P 1
- ・財務ハイライト(連結)…………… P 2
- ・事業の概況…………… P 3
- ・四半期連結財務諸表…………… P 5
- ・トピックス…………… P 6
- ・会社の概況・株主メモ…………… 裏表紙

信越ポリマー株式会社

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-9
電話 (03) 5289-3712
ホームページアドレス <http://www.shinpoly.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

ShinEtsu

信越ポリマー株式会社

証券コード:7970

株主の皆様へ



代表取締役社長 小野 義昭

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに、当社グループの第57期第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の事業の概況等をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における売上高は365億31百万円（前年同期比1.9%減）、営業利益は33億28百万円（前年同期比74.7%増）、経常利益は28億98百万円（前年同期比32.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は21億86百万円（前年同期比48.1%増）となりました。

第57期の中間配当につきましては、前中間期に比べ1.5円増配の1株につき金6円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年11月

配当金について

当社では、株主の皆様への利益還元を重要課題の一つとして認識しています。経営基盤の強化と持続的成長による企業価値の向上を目的として、財務体質の健全性及び研究開発投資や製造設備投資などを確保しつつ、業績に応じた安定的な配当を継続して行うことを基本方針としています。

当期の中間配当金は、この基本方針を踏まえ、業績と今後の事業展開などを総合的に勘案し、1株につき金6円とさせていただきます。また、年間配当予想は前期より3円増配の金12円としております。

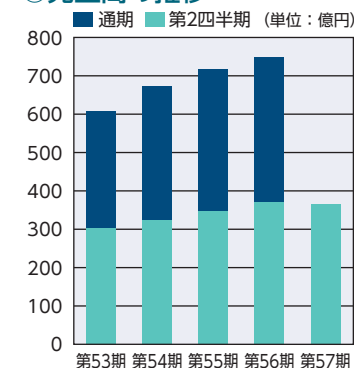
1株当たり年間配当金



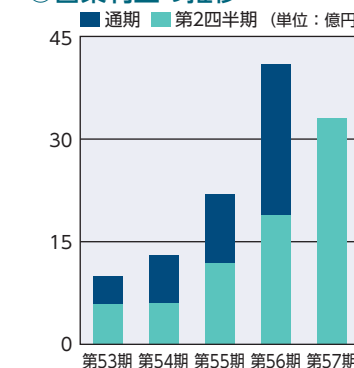
財務ハイライト（連結）

区 分	期 別	第55期第2四半期 (平成26年9月期)	第56期第2四半期 (平成27年9月期)	第57期第2四半期 (平成28年9月期)	第55期 (平成27年3月期)	第56期 (平成28年3月期)
売上高 (百万円)		34,871	37,233	36,531	71,707	75,039
営業利益 (百万円)		1,233	1,904	3,328	2,231	4,101
経常利益 (百万円)		1,432	2,181	2,898	2,865	4,532
親会社株主に帰属する 四半期・当期純利益 (百万円)		1,009	1,475	2,186	1,777	3,151
1株当たり四半期・当期純利益 (円)		12.41	18.07	26.69	21.85	38.55
総資産 (百万円)		88,375	94,709	89,849	93,889	92,845
純資産 (百万円)		67,991	72,707	68,769	72,250	71,253

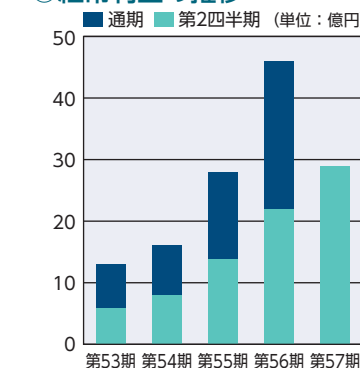
○売上高の推移



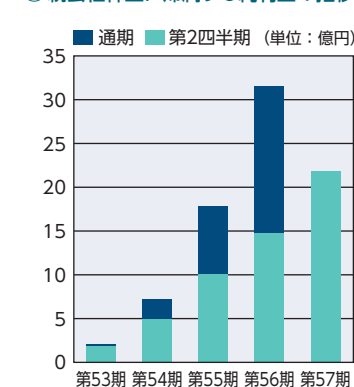
○営業利益の推移



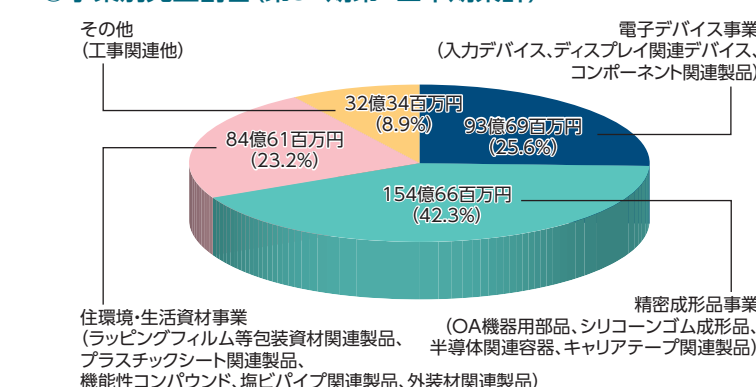
○経常利益の推移



○親会社株主に帰属する純利益の推移



○事業別売上割合（第57期第2四半期累計）



事業の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では個人消費が改善するなど堅調な景況感が続き、欧州でも英国のEU離脱問題で金融市場が一時混乱しましたが、ユーロ圏の景気は回復傾向をたどりました。また、アジアでは中国の景気減速が続きましたものの、ASEAN諸国の景気は回復の兆しが現れました。一方、日本経済は、雇用・所得環境が堅調でしたが、年初からの円高進行を受けて企業収益改善に足踏みが見られ、景気回復のペースが鈍くなりました。

当社グループの事業環境につきましては、自動車関連分野では世界的には安定した生産が続き、また半導体関連分野の需要も好調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、主力成長製品及び新製品の拡販に注力した営業活動を国内外で継続して展開し、生産能力の増強、生産性及び品質向上などを目的とした設備投資を積極的に進めてまいりました。また、本年4月に発足した開発本部と生産本部は、その機能と責任を明確にしたうえで、営業本部と三位一体の事業運営を徹底し、事業環境の変化に即応することに努めております。

各事業の概況は、次のとおりであります。

電子デバイス事業

当事業では、主力の自動車関連入力デバイスの出荷が堅調に推移しました。円高の影響などを受けて、全体として売上げは前年を下回りましたが、利益は前年を上回りました。

入力デバイスは、自動車電装スイッチの種類が増加したことに加え、搭載車種も増えて、キースイッチ及びタッチスイッチの出荷が安定的に推移しました。薄型ノートパソコン用のタッチパッドは、パソコン市場停滞の影響などにより落ち込みました。

ディスプレイ関連デバイスは、海外販売を中心とした液晶接続用コネクタが低調でした。

コンポーネント関連製品は、電子部品検査用コネクタがスマートフォンの生産調整の影響などにより伸び悩みました。

この結果、当事業の売上高は93億69百万円（前年同期比7.0%減）、営業利益は7億98百万円（前年同期比9.8%増）となりました。



自動車用キースイッチ

精密成形品事業

当事業では、半導体関連容器の出荷が好調に推移し、全体として売上げは前年を上回り、利益も大きく伸ばしました。

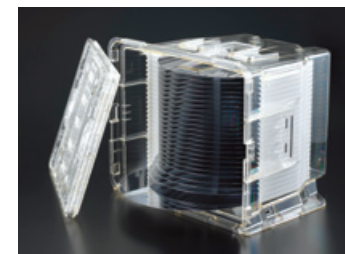
半導体関連容器は、半導体業界の高水準な需要を背景に、主力の300mmウエハー用製品の出荷が好調に推移しました。

OA機器用部品は、主要ユーザー向け出荷の伸び悩みと円高の影響により、落ち込みました。

キャリアテープ関連製品は、自動車電装分野向けの需要が堅調でしたが、スマートフォン用セラミックコンデンサーなどの微細部品用製品が振るいませんでした。

シリコンゴム成形品は、メディカル関連製品や建材関連製品など主力製品が安定的に推移しました。

この結果、当事業の売上高は154億66百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益は23億67百万円（前年同期比68.5%増）となりました。



半導体搬送容器

住環境・生活資材事業

当事業では、塩ビ関連製品の国内市場での需要低迷と価格競争により、全体として売上げは前年をやや下回りましたが、利益は改善しました。

ラッピングフィルムなどの包装資材関連製品は、食品スーパーマーケット向けが回復しましたものの、外食産業向けが減少して売上げは前年並みにとどまりました。

塩ビパイプ関連製品は、住宅着工戸数の伸び悩みにより、受注量確保が厳しい状況が続きました。

機能性コンパウンドは、国内の自動車生産ライン停止が重なるなどの影響で出荷が不安定でした。

外装材関連製品は、九州地区などで災害復旧・復興需要がありましたが、樹脂サイディング事業撤退による売上げ減少により、前年を下回りました。

この結果、当事業の売上高は84億61百万円（前年同期比5.6%減）、営業利益は17百万円（前年同期は3億21百万円の損失）となりました。



ラッピングフィルム

その他

工事関連では、首都圏を中心に商業施設の新築・改装物件の受注を獲得し、売上げは堅調に推移しました。

この結果、その他の売上高は32億34百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は1億45百万円（前年同期比53.7%増）となりました。

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (要旨) (単位: 百万円)

科目	前連結会計年度 (平成28年3月31日現在)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	69,953	67,614
現金及び預金	38,725	36,752
受取手形及び売掛金	17,037	17,644
たな卸資産	9,367	8,388
その他	5,217	5,205
貸倒引当金	△ 394	△ 376
固定資産	22,892	22,235
有形固定資産	19,771	19,268
無形固定資産	412	381
投資その他の資産	2,708	2,585
投資有価証券	1,265	1,272
その他	1,443	1,313
資産合計	92,845	89,849
(負債の部)		
流動負債	20,035	19,534
支払手形及び買掛金	12,621	11,947
その他	7,414	7,586
固定負債	1,556	1,545
退職給付に係る負債	1,327	1,229
その他	229	316
負債合計	21,592	21,080
(純資産の部)		
株主資本	70,493	72,344
資本金	11,635	11,635
資本剰余金	10,718	10,718
利益剰余金	48,667	50,465
自己株式	△ 528	△ 475
その他の包括利益累計額	743	△ 3,636
その他有価証券評価差額金	305	286
為替換算調整勘定	449	△ 3,914
退職給付に係る調整累計額	△ 11	△ 9
新株予約権	15	61
純資産合計	71,253	68,769
負債・純資産合計	92,845	89,849

四半期連結損益計算書 (要旨) (単位: 百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	37,233	36,531
売上原価	27,005	24,733
売上総利益	10,227	11,798
販売費及び一般管理費	8,322	8,470
営業利益	1,904	3,328
営業外収益	446	154
営業外費用	170	584
経常利益	2,181	2,898
特別損失	53	-
税金等調整前四半期純利益	2,128	2,898
法人税、住民税及び事業税	676	744
法人税等調整額	△ 21	△ 32
法人税等合計	654	711
四半期純利益	1,473	2,186
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 2	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,475	2,186

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (単位: 百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,141	3,269
税金等調整前四半期純利益	2,128	2,898
減価償却費	1,577	1,301
売上債権の増減額(△:増加)	241	△ 2,164
たな卸資産の増減額(△:増加)	△ 0	408
仕入債務の増減額(△:減少)	△ 1,073	310
法人税等の支払額	△ 201	△ 517
その他	469	1,033
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,264	△ 1,911
有形固定資産の取得による支出	△ 1,399	△ 1,910
その他	135	△ 1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 293	△ 366
配当金の支払額	△ 366	△ 367
その他	72	1
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 271	△ 2,742
現金及び現金同等物の増減額(△:減少)	1,312	△ 1,751
現金及び現金同等物の期首残高	34,823	35,377
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	166	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	36,301	33,626

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

《トピックス》

Shin-Etsu Polymer India Pvt.Ltd.にて第2棟地鎮祭を挙行

Shin-Etsu Polymer India Pvt.Ltd. (インド) では、第2棟建設にあたり、7月11日、地鎮祭を執り行いました。日本人スタッフ、現地スタッフが参列する中、日本の地鎮祭とは異なるインド式の神事になり、安全作業/無事故を祈願しました。第2棟は来年3月に完成する予定です。



インド式の地鎮祭の様子 ▶

「環境・社会報告書2016」で環境保全及び社会活動を報告



1年間の当社グループの環境保全及び社会活動についてまとめた報告書が9月に完成しました。特集「Episode」では、環境配慮・貢献製品の紹介だけでなく、既存技術の一つである「粘着技術」をまとめたページを設け、多岐にわたる市場において保有技術で社会に貢献していることを訴求しました。また、「コーポレート・ガバナンス」「お客様への対応」「従業員とともに」「地域社会とともに」「環境とともに」では、1年間の活動を報告しています。

▲ 生産事業所所在地で環境省の第四次レッドリストに掲載されている「県の鳥」を四季のイメージで表しています。今年度は、南陽工場が位置する山口県の県鳥「ナベヅル」を描きました。

医療事業の拡充を推進

当社グループでは40年以上にわたって医療用途部品を安定供給しておりますが、その実績を基に医療機器市場への本格参入を図ってまいります。今年6月には児玉工場が「第一種医療機器製造販売業許可証」を、7月にはシンガポールにて医療製品販売許可を取得しました。これを受け、シンガポールのMarina bay sands expo hallで開催された「MEDICAL FAIR ASIA 2016」に初出展し、メディカル向けシリコン製品、自社開発機能性シリコン製品など病院向け製品を展示し、来場者から高い関心を受けました。



シリコン製の自社開発医療部品などを展示しました。▲